

お と さ だ
乙 貞

第 218 号 通 巻 38 巻 第 3 号
平成 30 (2018) 年 8 月 1 日 発行

守 山 市 立 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー
TEL/FAX 077-585-4397

〒524-0212
守 山 市 服 部 町 2250 番 地

前号の乙貞発行以降、矢継ぎ早に大阪府北部地震、西日本豪雨、米原竜巻といった自然災害に見舞われました。その後も記録的な猛暑が続き、多数の尊い人命が奪われるなど甚大な被害を受けました。

被災地の惨状を見るにつけ、かつての守山も大雨になると、野洲川の何処かしらが決壊し、猛威を振るう自然の前ではなすすべがなかった歴史が想起されます。しかし、殊水害に関しては現在、野洲川改修工事が施工されたことによって、比して安心、安全の生活を享受することができる、恵まれた地域ではないでしょうか。

それでは、調査を終了した播磨田西遺跡と布施野城遺跡、金森東遺跡の発掘調査成果、歴史入門講座の開講や埋蔵文化財センター友の会活動などについて、お伝えしていきます。

発 掘 調 査 だ よ り

播磨田西遺跡 第25次調査

前号でも報告しました石田町字七ヶ坪において、5月9日より宅地造成に伴う発掘調査は5月末で終了しました。前号で調査区1を報告していますので、残りの調査区2の成果を報告します。

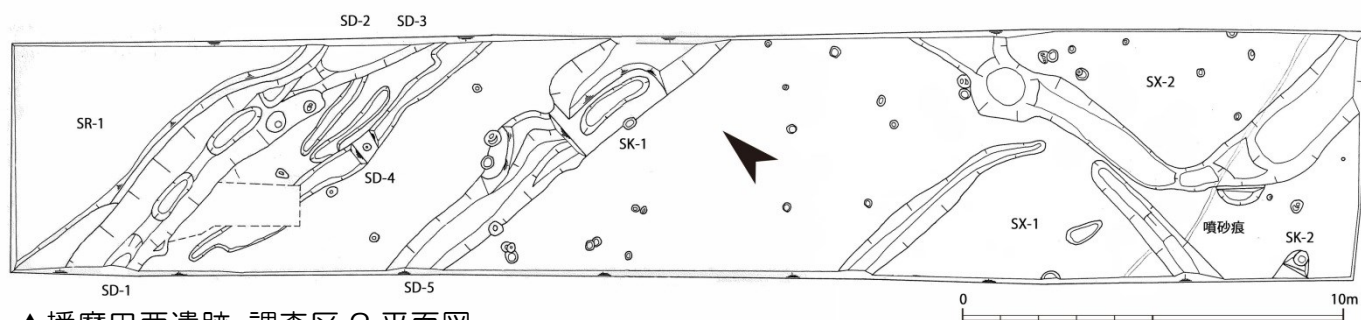
この調査区では、粘土～砂質土層を地山として、河道（SR-1）や溝（SD1-5）、方形周溝墓（SX-1、2）、土坑（SK-1、2）、ピットの検出と噴砂痕^{ふんさあと}を確認しました。

河道と溝は調査区の北半で検出していて、いずれも東西方向に流れています。SR-1は、検出範囲においては深さが20cm足らずと比較的浅く、調査区外へ広がっていきます。遺物は土師器^{はじき}が少量見つかっています。

溝SD-1～5は、幅が0.5m～2m、深さ10cm～50cmの規模を測ります。遺物は土師器や須恵器が出土していて、古墳時代後期の時期の溝である事がわかりました。

方形周溝墓SX-1、2は調査区の南半で検出しましたが、ともに部分的な検出であるため、規模はわかりません。このうちSX-1は、西壁から北、東辺溝が伸び、徐々に細く、浅くなり、コーナー部で途切れています。遺物は北辺の溝底から逆さになった壺や甕が出土していて、土器の特徴から弥生時代中期の時期と思われます。

SX-2は、SX-1の東辺溝に接するような位置で検出しました。西辺溝は10cm以下の深さですが、コーナー部では浅くなりながらも、約40cmの深さを測る南辺溝に続いています。SX-2からは遺物の出土はありませんが、SX-1と同時期と思われます。

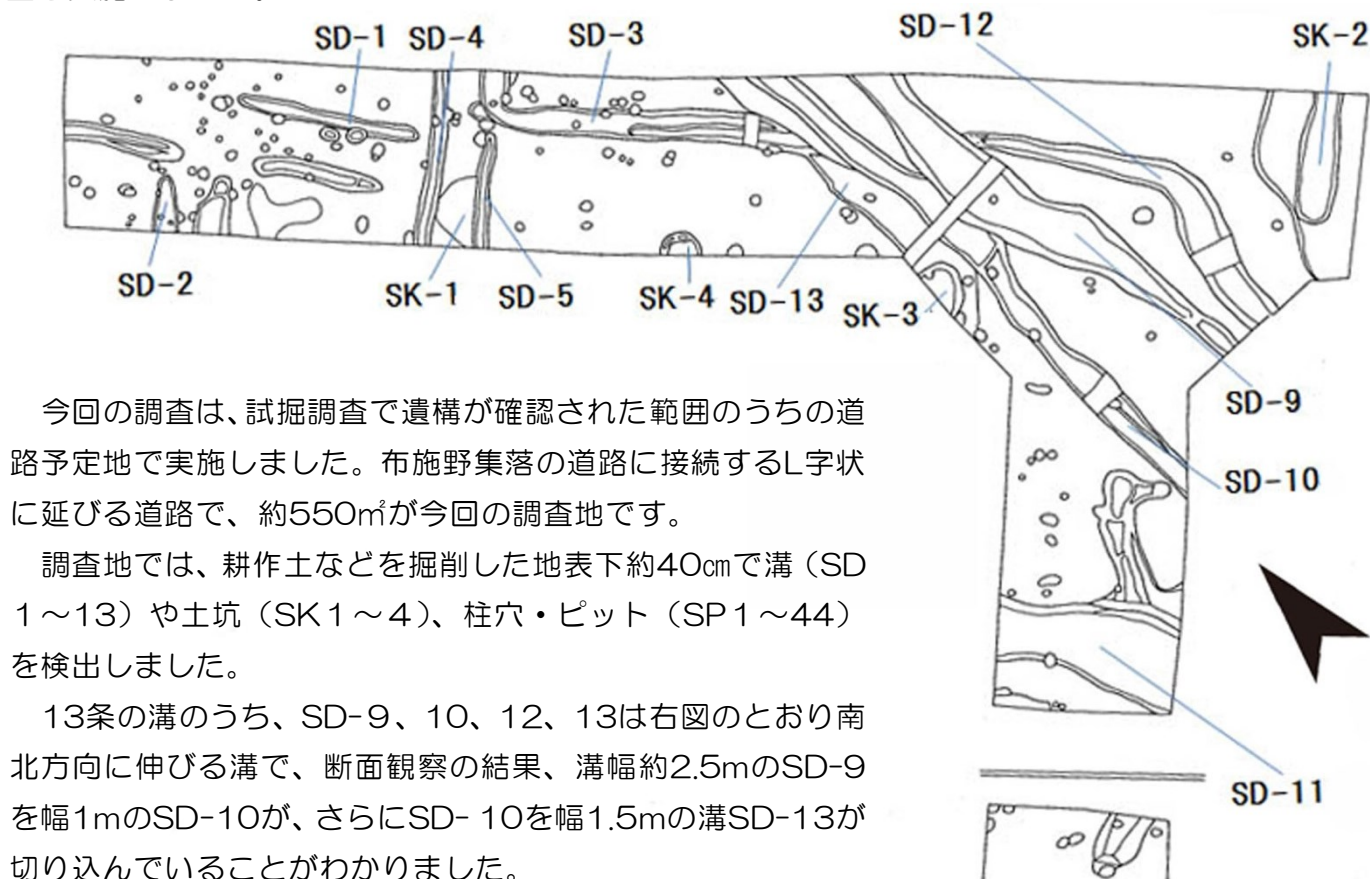


隣接する石田川の南側、県営住宅建築に伴う調査（昭和60年実施）でも、4基の方形周溝墓が見つかっていて、北側にも墓域が広がるのではないかと示唆されていました。今回の調査で検出した方形周溝墓は、まさにその想定された方形周溝墓といえます。

また、調査地南半では、2基の方形周溝墓を切りこむ幅5cmほどの帯状の砂層が東西方向に伸びていることを確認しました。断ち割ってみると、方形周溝墓の地山から細砂層が真上に向かって伸びることが観察でき、地震の痕跡である噴砂と判明しました。（畑本）

布施野城遺跡 第3次調査

播磨田町字三反田において、6月18日～7月19日の期間、約8,100㎡の宅地造成に伴う発掘調査を実施しました。



今回の調査は、試掘調査で遺構が確認された範囲のうちの道路予定地で実施しました。布施野集落の道路に接続するL字状に延びる道路で、約550㎡が今回の調査地です。

調査地では、耕作土などを掘削した地表下約40cmで溝（SD 1～13）や土坑（SK 1～4）、柱穴・ピット（SP 1～44）を検出しました。

13条の溝のうち、SD-9、10、12、13は右図のとおり南北方向に伸びる溝で、断面観察の結果、溝幅約2.5mのSD-9を幅1mのSD-10が、さらにSD-10を幅1.5mの溝SD-13が切り込んでいることがわかりました。

出土遺物はSD-10溝底で検出した2穴の柱穴のうちのSP15からは完形の黒色土器碗や土師器皿が出土していて、平安時代後期の時期が考えられます。他の遺構からも同時期の土器が出土していて、この時期にも集落が営まれていたことがわかりました。（堀田）



▲左：調査区3・4全景写真（北から）右：SP15出土土器

▲布施野城遺跡 遺構平面図

金森東遺跡の調査

金森町字野辺において、6月13、14日に個人住宅建築に伴い試掘調査を実施しました。この場所は金森東遺跡の範囲内にあたり、昨年実施した58次調査では中世の集落跡が確認されています。

調査の結果、造成土等の約70cm下で、溝、竪穴建物、柱穴等を検出しました。竪穴建物は一辺4.6mを測り、平面形状は隅丸方形となります。掘り下げると、床面からは主柱穴と浅く広い周壁溝しゅうへきこうが見つかりました。出土土器から弥生時代後期の竪穴建物と推測されます。

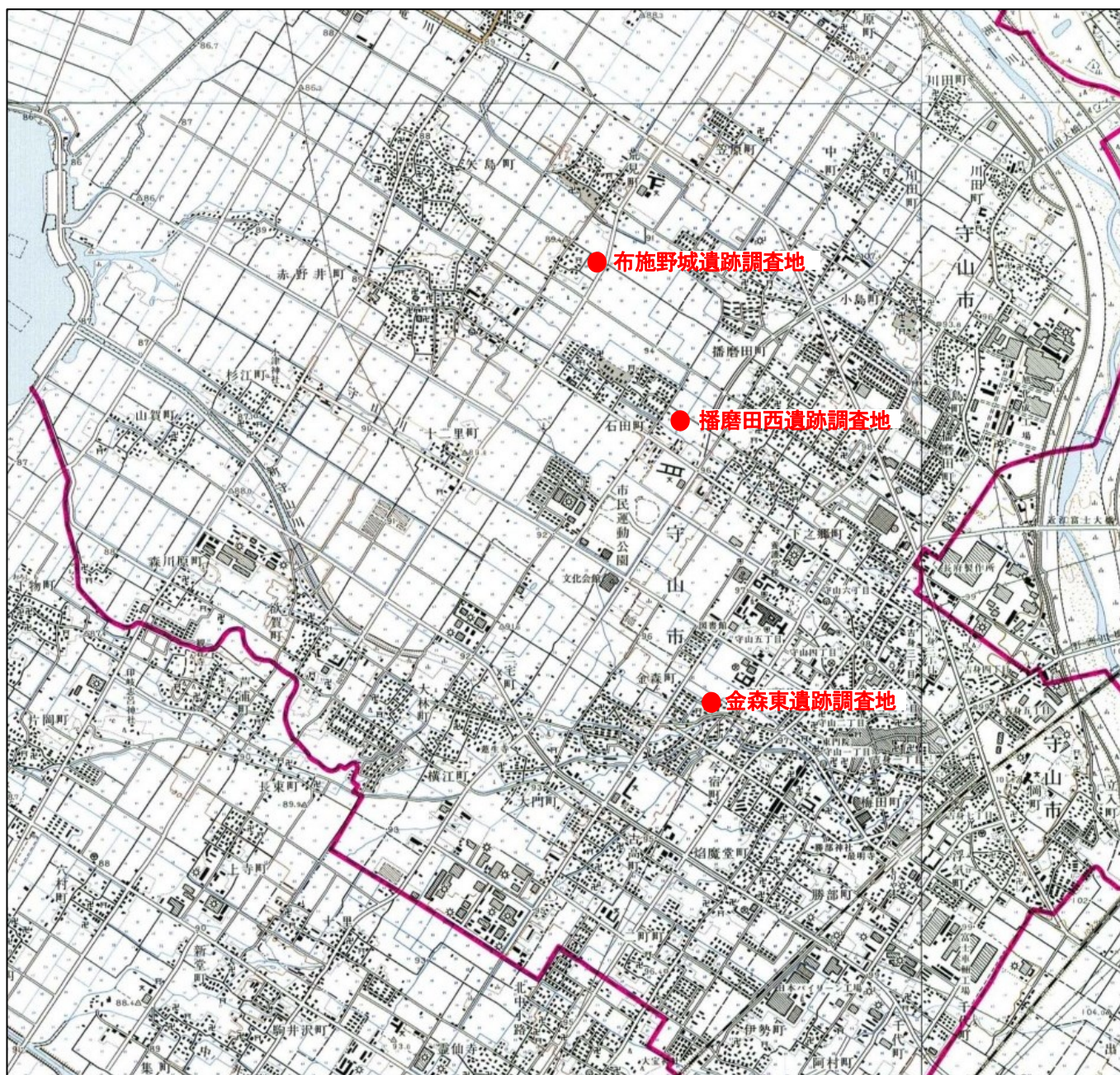
このほかにも、調査地を横断するように3条の溝、柱穴が検出されており、中世（鎌倉時代～室町時代）の遺構と考えられます。また、平面検出の際に磨製石斧ませいせきふが出土しており、周辺に、弥生時代中期にさかのぼる遺構が存在する可能性があります。

（伴野）



▲金森東遺跡 遺構検出写真

発掘調査位置図

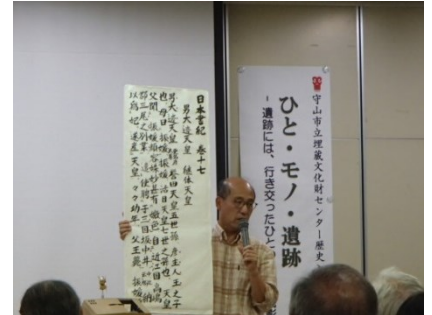


トピックス

平成 30 年度歴史入門講座 開講中です！

「ひと・モノ・遺跡- 遺跡には、行き交ったひとやモノの残影が映る -」を統一テーマに、6月16日（土）に第1講『大王の世紀 鴨稻荷山古墳の被葬者像』を開催しました。講師は高島歴史民俗資料館学芸員の白井忠雄さんで、ベテランならではのストーリーと語り口で、高島にゆかりのある継体天皇を織り交ぜながら、衆目を集める古墳被葬者の実像に迫りました。

続く7月21日（土）に開催した第2講の講師は、公益財団法人滋賀県文化財保護協会の山口誠司さんです。学生の頃から城郭や瓦を研究されている山口さんは、「瓦から見た近江の城郭」というテーマで、城に用いられた瓦から見えてくるものを分かりやすく講演いただきました。



▲講座開講風景写真（第1講）

埋蔵文化財センター友の会第2回見学会を開催しました！

友の会では、5月の第1回見学会に続き、7月20日（金）には、第2回見学会を開催しました。今回は、「山間に佇む伊賀の里探訪」をテーマに、国史跡城之越遺跡^{じよのこしこいせき}と伊賀上野城、そして城下の武家屋敷である入交家住宅^{いりまじりけ}を見学しました。

城之越遺跡では、古墳時代の水にまつわる祭祀が執り行われた大溝や井泉^{せいせん}が国の名勝及び史跡に指定されています。守山の服部遺跡でも、清らかな水を用いた祭祀跡が見つかっていて、見学者一同は大変身近に感じていました。



写真 上段左から 伊賀上野城・同城高石垣・武家屋敷入交家住宅・同屋敷見学風景

下段左から 城之越遺跡大溝復元風景・同見学風景・城之越学習館での学習風景・昼食風景

【後記】冒頭の続きになってしまいましたが、日本列島、西日本、あるいは局地的に自然災害が頻発した今夏、被災地では、多くの人命や財産が失われ、ライフラインも寸断されました。亡くなられた方のご冥福と被災地の一刻もはやい復興を祈るばかりです。

多くの地域で市民生活に深い影を落としているにもかかわらず、守山市内においては、発掘調査が着実に行なわれ、講演会や友の会活動も計画変更もなく開催できるという平穏があります。しかし、いつ起こるやも知れぬのが災害です。安心・安全を当たり前とは思わず、日頃より万が一の備えを怠らないように心がけたいものです。

（馬耳東風）